

2013 年度後期 工学部機械工学科 授業評価 目次

授業コード	授業科目名	開講時限等	担当教員	ページ
T1Q008001	機械システム入門	1 年後期火曜 4,5 限	比田井 洋史他	T1Q 1
T1Q020001	熱力学 II	2 年後期水曜 2 限	森吉 泰生	T1Q 2
T1Q022001	流体力学 I	2 年後期月曜 3 限	三神 史彦	T1Q 3
T1Q025001	計測基礎論	2 年後期水曜 1 限	並木 明夫	T1Q 4
T1Q026001	工業数学 II	2 年後期月曜 2 限	渡辺 知規	T1Q 5
T1Q039001	機械設計製図	3 年後期水曜 4,5 限	森田 昇他	T1Q 6
T1Q039003	機械設計製図	3 年後期金曜 4,5 限	比田井 洋史他	T1Q 7
T1Q041001	デザイン工学	3 年後期月曜 4,5 限	各教員	T1Q 8

授業科目名	: 機械システム入門
担当教員	: 比田井 洋史, 大川 一也
年次・開講時限	: 1 年後期火曜 4,5 限
授業コード	: T1Q008001
授業アンケート	: 回答者数 65 人 / 受講者数 76 人 (回収率 86%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q7. 教室の環境は満足できるものですか? (回答 61 件)

多くの方から「教室が狭く、作業には適さない」との意見をいただきました。この意見は、機械システム入門を開講してから毎年出ており、当然、教員側としても変更したいのですが、「作業に適した部屋」かつ「製作物や工具の運搬がしやすい部屋」が見つからないのが現状です。皆さんの気持ちもよく分かるのですが、いろいろと検討した結果、あの部屋になったことをご理解ください。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 10 件)

改善すべき点として、特に多かったのは「使える工具や材料が少ない」という意見です。工具・材料ともに十分でないことは承知しています。授業に使用できる予算および保管場所には限りがあるので、それらも踏まえて検討したいと思います。なお、工具については、安全を第一に考えると、あまり種類を増やせない(増やすなら、別途、使い方の教育や T A の補助などが必要)という問題もあり、厳しいかもしれません。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 10 件)

改善すべき点として「製作物のレベルを調整すべきである」といった意見がありました。製作が得意な人がいる班もあればそうでない班もあり、また、その能力を教員側が事前に把握できないので、製作物のレベルを調整することは非常に難しいというのが実情です。限られた時間や工具・材料を使い、自分たちで何を作れるのか(何ならば作れるのか)を班の皆で相談して製作していくことも、この授業で学んで欲しいことの一つと考えています。難しいけどね。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

「構成メンバーで適切に分担できていましたか?」の項目で「はい」と答えた人は半分で、残りはそのようではなかったようです。作業が得意だからといって自分だけで進ませるのではなく、また作業が苦手だからといって他人がやるのをただ眺めているのではなく、班としてうまく機能させるためにはどうすれば良いのかについて双方で考えることを心がけましょう! コミュニケーションが苦手と思っている人もいるかもしれませんが、相手も自分と同じ同級生なので、思い切って意見を出しましょう!

3. その他のコメントや連絡事項

作業の途中では、本当に完成するのかと不安もありましたが、最終的には、どの班もうまく仕上げられていたと思います。でも、製作物に満足していない人も多いと思います。満足するモノを作るには、時間や工具・材料が足りないというのはもちろんですが、2 年次以降の講義で学ぶ知識も必要だと思っています。必修だから仕方なく講義を聴くのではなく、なぜ必修なのか、学んだ知識は何に活用できるかなども同時に考えながら受講することをお勧めします。3 年次後期になると、班ごとにモノを作る授業として「エンジニアリングデザイン(旧名称: デザイン工学)」があります。そのときに、より満足のいくモノが作れると良いですね。

作成(者): 大川一也

授業科目名	: 熱力学 II
担当教員	: 森吉 泰生
年次・開講時限	: 2 年後期水曜 2 限
授業コード	: T1Q020001
授業アンケート	: 回答者数 59 人 / 受講者数 132 人 (回収率 45%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q10. 授業では宿題, レポート等が理解を助けるのに役立ちましたか? (回答 53 件)

この項目の評価が他に比べて低い. 時間が不足して丁寧な解説ができなかったときがあったので, 今後は改善したい.

2. 授業アンケート全体に対するコメント

熱力学は機械工学のもっとも基礎となる科目の一つである. 工学的な応用例も講義中に説明しており, 興味を持って勉強してほしい.

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 森吉泰生

授業科目名	: 流体力学 I
担当教員	: 三神 史彦
年次・開講時限	: 2 年後期月曜 3 限
授業コード	: T1Q022001
授業アンケート	: 回答者数 40 人 / 受講者数 112 人 (回収率 36%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q12. あなたはこの授業にどの程度出席しましたか? (回答 36 件)

昨年度の平均は 4.7. 今年度の平均は 4.81. この設問の回答数は, 昨年度 63 件に対して, 今年度は 36 件だった. 授業によく出席していた学生の回答が多かったと考えられる.

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 36 件)

今年度の平均は 1.53 で, 昨年度の平均 1.8 を大幅に下回る. Q12 で, 授業の出席率が昨年よりも良い集団なのに, 勉強しなくなった.

Q3. 教員の声はよく聞こえましたか? (回答 40 件)

昨年度の平均は 4.9 だったが, 今年度は平均 4.58 と大幅減少した. 話し方は昨年と変わっていない.

Q4. Q3 の評価が「はい」でない場合, その原因に該当するもの全て選択して下さい. (回答 7 件)

「ややそういえる」, 「どちらともいえない」に回答した人も含めて, 話す速さが速い, 聞き取りにくい, 抑揚がない, などの理由をあげる学生が 1 名ずついた. それ以外はマイクの音量が小さいという理由であるが, Q3 については, 他の科目でも昨年度の平均を下回る傾向が見られる. 学生の要求するものが変わってきていることについて, 注視したい.

2. 授業アンケート全体に対するコメント

昨年度は毎回出席をとりましたが, 今年度は出席をとりませんでした. それでも, 授業への出席状況は, 初回から最終回まで, いつも良かったです. 授業へは出席しているのですが, 授業を聴こうという気持ちが強くない人たちが, 授業へ出ることで満足している様子が, 今回のアンケート結果に現れているように思います.

出席の代わりに, e-ラーニングシステムの Moodle に作成している流体力学 I のコースに登録してもらい, 学習状況を確認しました. 講義スライド, 理解度確認の小テスト, 演習の解答例を Moodle で利用できるようにしていますが, これを数週間一度も見えていない, 全く勉強していない学生がはつきりしました. Moodle に数週間アクセスしていない学生については, 該当者のリストを授業のときに公表して警告しました. もちろん Moodle をうまく利用している学生もあり, 「Moodle の課題が理解を深めるのに役立った」というような好意的な内容の書き込みが複数ありました.

3. その他のコメントや連絡事項

Moodle で学習履歴を確認しますので, 毎週の講義や演習の度に, Moodle で学習してください. 学習履歴には, 以下のようなものが記録されています.

- ・各回のスライドや演習解答例のダウンロードまたは閲覧の有無
- ・小テストの受験状況, 問題を解くのにかった時間, 選んだ選択肢

無理やりにでも重要なところに注意を向けさせることを期待する学生もいるようです. 授業の前にシラバスを読んできて, 話の流れを理解し, 気づくことも大切です.

作成(者): 三神史彦

授業科目名	: 計測基礎論
担当教員	: 並木 明夫
年次・開講時限	: 2年後期水曜 1 限
授業コード	: T1Q025001
授業アンケート	: 回答者数 46 人 / 受講者数 120 人 (回収率 38%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q9. 例題, 例え話やサンプル等がわかりやすかったですか? (回答 43 件)

例え話が良く伝わらなかったことがあったようですので, 次年度以降は実例の紹介を増やしたいと思えます. また, 実物を見せる機会についても講義に入れていくことを考えています.

Q10. 授業では宿題, レポート等が理解を助けるのに役立ちましたか? (回答 45 件)

講義日程のスケジュールが厳しく, 現状では演習の時間が少ないのですが, 次年度以降はスケジュールを見直し, 可能な限り増やしていきたいと思えます.

2. 授業アンケート全体に対するコメント

「授業を聞いていてどこが大切なのか伝わって来なかった。」というコメントがありました. 講義内容がセンサ, 誤差推定, 信号処理など多岐に渡るためと思えます. 次年度以降は, 講義全体の中での各内容の位置づけの説明を増やし, また, 要点について強調して説明するようにしたいと思います.

3. その他のコメントや連絡事項

Moodle のアップロードのタイミングはなるべく早めたいと思えます

今期は講師の急病による突然の休講が多くなってしまいました. この場でお詫びします.

作成(者): 並木 明夫

授業科目名	: 工業数学 II
担当教員	: 渡辺 知規
年次・開講時限	: 2年後期月曜 2 限
授業コード	: T1Q026001
授業アンケート	: 回答者数 34 人 / 受講者数 102 人 (回収率 33%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q1. この講義のシラバスについて、該当するものを全て選択して下さい。(回答 32 件)

「内容がわかりやすかった」が 59.4%、「...役立った」が 15.6%である一方、「シラバスは見なかった」が 25%あり、残念だった。

Q7. 教室の環境は満足できるものですか？(回答 33 件)

「はい」が 84.4%であった。

Q9. 例題，例え話やサンプル等がわかりやすかったですか？(回答 33 件)

「はい」が 78.8%であり、「ややそういえる」が 12.1%であった。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

学生から「厳しいことを言っているようで、実は当たり前のことを言っているの、先生の方針は正しいと思う」というコメントがあった。厳しいととらえられる面もあったと思うが、効果的な授業を行いたいという意図が多くに伝わっていたことを実感した。

3. その他のコメントや連絡事項

100 名を超える受講者があった。来年度以降は、「本当に学びたい」という意欲のある学生のみ履修してもらいたい。

作成(者): 渡辺知規

授業科目名	: 機械設計製図
担当教員	: 森田 昇, 松坂 壮太
年次・開講時限	: 3年後期水曜 4,5 限
授業コード	: T1Q039001
授業アンケート	: 回答者数 25 人 / 受講者数 40 人 (回収率 63%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 22 件)
文部科学省の単位の基準”1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とするもの”で考えると, この授業では毎回の授業の予習・復習に 3 時間程度かけることが適当である. 自由記述で課題の量が多いとの指摘もあるが, アンケート結果から, 課題の分量は適量だと判断している.

参考: http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/07091103.htm

2. 授業アンケート全体に対するコメント

同様な内容で曜日の異なる 2 つの授業を行っている. 曜日が異なるだけにもかかわらず, 2 つのアンケートで, 内容に関する点 (Q9, Q15, Q16 など) で最大 0.6 も値が異なる. アンケート結果が有意なのか疑問が残る.

3. その他のコメントや連絡事項

TA による積極的な指導が実現できなかったのが, 残念である. 受講生で修士に進学する学生は, 是非, TA になって積極的な指導をお願いしたい.

作成(者): 比田井

授業科目名	: 機械設計製図
担当教員	: 比田井 洋史, 大森 達夫
年次・開講時限	: 3年後期金曜 4,5 限
授業コード	: T1Q039003
授業アンケート	: 回答者数 26 人 / 受講者数 44 人 (回収率 59%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 21 件)
文部科学省の単位の基準”1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とするもの”で考えると, この授業では毎回の授業の予習・復習に 3 時間程度かけることが適当である. 自由記述で課題の量が多いとの指摘もあるが, アンケート結果から, 課題の分量は適量だと判断している.

参考: http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/07091103.htm

2. 授業アンケート全体に対するコメント

同様な内容で曜日の異なる 2 つの授業を行っている. 曜日が異なるだけにもかかわらず, 2 つのアンケートで, 内容に関する点 (Q9, Q15, Q16 など) で最大 0.6 も値が異なる. アンケート結果が有意なのか疑問が残る.

3. その他のコメントや連絡事項

TA による積極的な指導が実現できなかったのが, 残念である. 受講生で修士に進学する学生は, 是非, TA になって積極的な指導をお願いしたい.

作成(者): 比田井

授業科目名	: デザイン工学
担当教員	: 各教員
年次・開講時限	: 3年後期月曜 4,5 限
授業コード	: T1Q041001
授業アンケート	: 回答者数 56 人 / 受講者数 95 人 (回収率 59%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q1. この講義のシラバスについて、該当するものを全て選択して下さい。(回答 51 件)

「シラバスは見なかった」が 27.5 %であった。シラバスには、非常に重要なことが書かれている。残念である。

Q23. 班の構成メンバーで実験を適切に分担できていましたか？(回答 33 件)

「はい」が 60.6 %であり、「ややそういえる」が 18.2 %であった。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

シラバス中の [授業概要] には、「課題設定、実行、発表において、教員は学生の行動に強く関与することはせず、基本的にアドバイスを与えるのみに留める」とあり [目的・目標] には、「課題の設定や遂行については、原則として学生が主体的に行う」とあります。一方で、アンケートには、「...すべて学生によってものを作り上げることになり大変だった」などのコメントがありました。学生のみなさんには、今回の体験を通しての自分の成長を感じ取ってもらえたらと願っています。

3. その他のコメントや連絡事項

この授業は、上記からもわかるとおり、主体性やチームワークが要求される授業です。積極的な授業への取り組みを期待します。

作成(者): 渡辺知規 (当該年度世話人)